



第5号

発行責任者  
会津能楽会会長

佐藤 ヨシカ

〒965-0856  
会津若松市幕内東町2-11  
電話0242(26)1003

発行者  
会津能楽会



あいさつ

会津能楽会会長

佐藤 ヨシカ

昭和二十四年会津能楽会発足から第八代目の会長となりました。前任者山田和彦氏の大きな功績の後を引継ぐには未熟な私ではありますが、皆様のご協力をいただきこの大役を務めたいと存じます。

会津能楽会は、年三回の演能会の開催、永年の念願が叶い竣工なった会津能楽堂の意義ある活用、減少傾向にある会員の勧誘、会津に稽古場をもっておられる能楽師の先生方との関わり方、六十団体からなる大きな組織である会津文化団体連絡協議会の一団体としての役割等々、これらの事を考えますと、能楽会の永い歴史の中で守るべき事も沢山ありますが、少しずつ変わらざるを得ないのが現状であります。現在十三名の新役員の方々が全力を尽くして役割をこなして下さっています。

会津能楽会が魅力ある楽しい会であって欲しいと心から願って、会長としての責任を果たすべく努力を致しております。会員の皆様どうかご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。



能楽堂竣工式 (岩船の舞)

# 会津能楽堂建設特集号



完成なった会津能楽堂

# 会津能楽堂

## 建設への歩み

能楽堂建設協会理事(業務担当)

山田和彦



会津は戊辰戦役で敗者となり、城は取り壊され、戦乱の中で装束や面、道具類も散逸した。

明治十一年、地元に残った愛好者が能楽の再興のため「和楽講」を結社し、資金を募り装束、面、道具などを購入し、東京より能楽師を招聘し、研修を重ね、演能できる技量を保った。その頃の演能には料理屋の広間や個人宅の広間などが用いられた。

創業期の有力者が相次ぎ他界し、一時衰退したが、会津能楽会(第一次)、会津宝生能楽会、現会津能楽会と引継がれ、演能の伝統は続いた。その後、演能会場は、次第に公の施設(小学校講堂や公会堂)を使用することが多くなってゆく。

昭和三年、松平勢津子姫が秩父宮妃になられることをお祝いして寄付

を募り、組舞台を製作した。その組舞台を市の公会堂などの広間に設置して演能した。この組舞台は老朽化と、市民会館の敷舞台を使用することが出来るようになったことで、昭和五十年のスポーツセンターでの演能の後、廃棄された。

市では、市民会館が廃止されるに伴い、新たに文化福祉センターの建設計画が進み、会津能楽会では組舞台を備えるよう強く要望し、実現に至った。以来、定期演能会の多くは文化センターを使用するようになった。

更に、会津能楽会の定期演能会は春秋の二回の上演だったが、昭和六十一年から会津鶴ヶ城新能が加わり、本丸広場の特設舞台上で上演。以来年三回の公演となった。

市文化センターの舞台は、使用を希望する団体が多く、抽選にもれて使用できないときもあった。舞台部品の重量も半端でなく、組み方は専門性も必要だったので会員が行った

が、高齢のため、設置に怪我人も出る有様で、能楽の伝統を有する会津に独立の能楽堂を持ちたいという願望が強くなった。

市に、県立の文化施設ができるということで、松平知事に能楽堂建設の陳情をしたが、会津に博物館をつくるのが精一杯であると言われ実現しなかった。後に會津風雅堂の建設計画が進み、会津能楽会では能楽堂を内蔵することを強く要望したが、予算が縮小されたことに伴い、第二期工事の際に考慮すると後回しにされ、やがて市財政の悪化のため内蔵能楽堂建設は立ち消えになってしまった。

会津能楽会では、古川会長(昭和五十二〜六一年)の時に能楽堂建設担当が、松枝会長(昭和六十二〜平成八年)の時には能楽堂建設委員会が置かれ、推進のため当局との交渉に当たった。

松川会長(平成九〜十六年)の時に署名を集め、市議会に「能楽堂建設促進」の請願をし、議会で採択された。

市内の「三日会」に能楽堂建設の案があり、平成十二年、本会では三日会との懇談会を行った。

平成十二年、会津能楽会に三日会のメンバーを入れた「能楽堂建設実行推進委員会」及び小委員会「能楽堂建設実行委員会」を設置し、定期

的に会合を持ち、能楽堂建設のための資料収集、具体的な建設構想構築を進めた。

平成十六年二月の会津能楽会総会において、推進委員会の提出した「会津能楽堂建設協会」構想が承認され、同年七月に推進委員会は発展的に解消し、新たに三〇五万円の資本金を集め、民活によって建設を目指す、有限責任中間法人「会津能楽堂建設協会(代表理事松川善之助・満田政巨)」設立総会を行い、登記を九月に完了した。以後、能楽堂建設はこの法人が推進した。

平成二十一年八月八日会津能楽堂を竣工。ここに長年の夢は実現した。

私は平成十七年から二十二年まで会津能楽会会長として、歴史的なこの事業に携われたことを誇りに思っている。世界的金融危機の中、建設に際しご協力を賜った多くの方々から感謝申し上げます。



# 完成の喜びと 今後への期待

能楽堂建設協会代表理事 満田政巨



能楽会会報第5号の発行まことに  
おめでとございます。能楽堂建設  
では、能楽会からは山田和彦氏をは  
じめ多くの協会役員を出して頂きま  
した。また、組織を挙げての募金活  
動には大変元気づけられました。お  
陰様で県内外の人々、企業・団体か

ら募金を頂き、平成の大不況下にも  
かわらぬ竣工式を迎える事ができ  
ました。式での能楽会員八〇余名に  
よる祝語は正に悲願達成の「歓喜の  
歌」でした。

私の「能楽会との出会い」は姉  
(岸淑江)の仕舞でした。東京水道  
橋にある宝生能楽堂ではじめて見た  
伝統芸能の奥深さに心を打たれまし  
た。それは戦後まもなくの頃で、社  
会はアメリカ文化が広がりはじめ、  
よき日本の精神文化が片隅に追いや  
られる傾向でした。私は日本の伝統  
文化に魅力を感じるようになり、実  
家の味噌製造業を継いだ三〇歳代に  
は市橋仙次郎氏の指導する「三日会」  
に入り謡曲を習い始めました。現在  
は中村寿男氏が指導者となっております、  
彼が「三日会と能楽会」の橋渡しを  
して建設運動が動き出したことは周  
知の通りです。平成十六年二月、有  
限責任中間法人「会津能楽堂建設協  
会」を設立し、募金活動と建築設計

を並行して進め、市長に強く働きか  
け、用地確定を待つばかりでした。

平成二十一年八月建設工事が始ま  
ると、私は建築現場に行かないと落  
ち着かなくなり、毎日のように出か  
け、設計以外の庭木、庭石の種類・  
配置などもあれこれ考えて楽しみま  
した。また高田地区にある「天宝山  
荘」にこもり、趣味の木彫りで看板  
「会津能楽堂」を彫る作業を行い、  
至福の時を過ごしました。

今後、能楽堂が広く活用されるた  
めには野外席の解消が欠かせません。  
また会津観光のスポットとするため  
の知恵も能楽会に託したいと思いま  
す。

今、能楽堂を眺めてつくづく思う  
ことがあります。能楽堂をつくる原  
動力になったのは「人間は誰かのた  
めに役立つたい心を持っている」と  
いうことであつたと思います。財力・  
経済力の有無・大小・強弱は関係あ  
りませんでした。個人は勿論、企業  
では社会貢献方針の有無が募金する  
か否かを決めたようです。凜として  
建つ会津能楽堂はこうした日本人の  
持つ美しい心のシンボルでもありま  
す。このことが子々孫々まで伝えら  
れ、会津の能楽をはじめとして広く  
伝統文化の活動拠点になることを願  
うばかりです。

最後になりましたが、有限責任中  
間法人「能楽堂建設協会」の業務担  
当として、「三日会」の本田忠一氏  
が各種会計処理・企業回りなどをし  
て頂いたことをここに記し、感謝申  
し上げます。





# 会津能楽堂

## 建設を終えて

会津能楽堂建設協会代表理事

松川 善之助



伝統を有する会津の能楽を愛する人々の長年の夢であった能楽堂の建設は、地元を始め各地

の篤志の方々の多額の寄付により竣工することができました。その後会津若松市に寄贈し、伝統文化発信基地として活用されています。この事業に会津能楽堂建設協会代表理事の一人として貢献できましたことは、吾が能楽人生においてのたいなる記念碑であります。ご協力いただきました多くの方々に心より御礼申し上げます。

会津能楽会では、長く能楽の伝統のある会津に公立の能楽堂を建設して欲しいと、県知事、市長、県議、市議、国会議員に働きかけをしましたが、見通しが立たないでいました。こんな時に、三日会にも能楽堂の建設構想があると聞き、懇談会を持

ちかけました。それによると、資金を民間から集めるという構想（PFI）がありました。今までの部内の検討には無かった視点でしたのでショックを受けましたが、建設推進のパートナーとして協働することになりました。会津能楽堂建設推進委員会を組織し、建設の道筋の検討を実行委員会に委ねました。

この中で生まれたのが、有限責任中間法人「会津能楽堂建設協会」構想でした。協会が正式に発足したのが平成十六年九月でした。会津能楽会の積立約八百万円を基金としながら、ここから本格的な募金運動が始まりました。

印象的でしたのが、満田政巨代表理事の精力的な活動でした。経済界の種々の会合で建設の趣旨と募金の呼びかけをしてくださいました。お願いにゆくと、挨拶もそこそこに多額の寄付を回答してくださる企業もありました。反響は大きかったと思います。当然のことですが、会津能

楽会会員の方々も様々な手づるを訪ねて呼びかけ、募金を集める努力をしました。やがて建設の見通しが立ち、並行して業者を選定し、建設にかかりました。上棟式を終え、骨格から全姿が見え始めた頃、鏡松の制作が会津土建の倉庫で始まりました。暑い季節、汗をぬぐいながら精力的に取り組んでいる本会員の能面師、富山南斎氏の姿にも感銘を受けました。

多くの方々の願いがこもった会津能楽堂が竣工した今、伝統文化発信基地として活用されていますが、まだ行政上の課題があります。都市計画上の問題で多方面の使用が制限されていることと、それを原因とする見所の不備（屋根をかけられない）があり、多くの方々の意向が生かされていないのが現状です。行政的に出来るだけ早くクイヤーして、観客が安心して観賞できるものになることを願っています。

平成20年度福島県文化振興基金顕彰芸術功労賞



平成18年度会津若松市教育委員会表彰文化芸術功労賞



受賞おめでとう  
ございます

# 会津能楽堂

## 建設に係わって

能楽堂建設協会理事(総務担当)

本 田 忠 一



一九九九年九月三日。会津能楽会から六名三日会から四名が、

市内の田事旅館に集まり、能楽堂建設問題でお互いの立場から意見を開陳。この時に、会津能楽堂建設の展望は開けた。

その後、中村寿男事務局長の差配で推進委員が選ばれ、二〇一二年十一月十八日第一回実行委員会、三日会の方針に基き、翌十二月から毎月一回実行委員会を開催し、そこで組織と運営・建設資金の調達方法と管理等を討議して、推進委員会に答申したことによって能楽堂建設に踏み出すことになった。

ここで、私が直接このプロジェクトに係わったことを思いつくまに記してみると、九九年の座談会から

○九年の能楽堂落成までちょうど十年、一貫して総務担当者として仕事に従事した。

・協会定款の作成、建設基金管理の帳票書式の設定、全国各地二千名を越す建設基金拠出者名簿の整備と基金の管理。

・法人としての会津能楽堂の設立に係わる公証人役場や会津法務局との折衝。

・建設基金拠出者の寄付金を非課税とするため、仙台国税局との事務折衝。業務担当理事の山田和彦会長(当時)にサポートしていただいた。

・東京会津赤べこ会で舞囃子等実演の際は能楽会の特別チームに帯同。

・東京会津会総会で建設基金拠出を要請した際、満田代表理事に随行。

・柿落しの檜枝岐歌舞伎の上演に關して、星村長や千葉之屋花駒座の幹部との折衝。檜枝岐村訪

問の際は鈴木圭介理事が同行。建設基金の拠出と、更に柿落し興行の特別協賛者になって戴くべく、温知会会津中央病院に要請。最初は松川善之助代表理事と平山昇理事同道。南嘉輝理事長から五百万円の建設基金と特別協賛金百万円を受領。

・そのほか沢山の思い出が甦ってくる。さて、割当紙数が尽きてしまったが、世迷い言と断じられようとの際だから言っておきたいことがあるので、お許しを乞う。

そもそも能楽堂を建設したいという思いを強く抱いていたのは、会津能楽会の他に満田政巨天寶醸造株式会社会長であった。そして満田会長と共に三日会のメンバーが描いた能楽堂建設のコンセプトは――

◎会津地方や日本各地に継承されている郷土芸能の上演を通じて保存育成に協力。

◎小・中・高校生に能舞台を踏ませ、能狂言の文化を理解させ、後進の育成に注力。

◎小・中・高校で音楽を学んでいる子供たちの指導のため、教師・PTAとタイアップして中央から演奏家を招き、その機会に室内楽などの演奏会を開き、能楽堂の舞台が西洋音楽にも雰囲気

的にピッタリくることを聴衆が認識。

◎全国の音楽愛好先進機関とチャネルを結び、中国、アジア、アフリカ等に伝わる伝統的民族芸能を誘致。観光面でも寄与。

要するに、会津能楽堂は単なる能狂言専用舞台ではなく、その他の分野でも広く活用して、この地の重要な文化施設としてユニークな仕事をする事なのである。

そのためには、入場料も考えなければならぬだろうが、イベントの実行委員会をその都度結成し、特定多数の人から協賛金と、市内有力機関(大企業や有力中小企業・地域の各業界団体・東山や芦の牧の観光旅館等)の協賛を得て、「上演を実現すること」はいかなるものかと考えられる。

定期的に演能会を開催し活躍している会津能楽会は、大きな力を内蔵しており、リーダーシップを発揮するチャンスである。



# 能楽堂建設の経過

## 能楽堂建設への夢

一、会津能楽会の取り組み  
具体的な活動事例

昭和六十二年、各委員会を新たに設置。能楽堂建設委員会は、能楽堂、能舞台建設に関する情報の蒐集・建設計画を進める。

平成七年、会津新能十周年記念事業で能フォーラムを開始。課題とし



会津能楽堂上棟式

て、会津に「能楽堂建設の近道」を探る。

平成九年、基金を集める。

①昭和六十二年には会長松枝和夫氏は古川義夫顧問と共に猪俣市長に陳情。

②能楽会は会報を創刊（平成九年）以後能楽堂建設の記事を掲載。

③能楽堂建設資金積み立てを開始（平成九年）。

④平成十二年には会津能楽会の能楽堂建設委員会（松枝会長時代に設置）は、計画中の生涯学習拠点施設内に能楽堂を併設できないか、働きかけを行った。

⑤松川善之助会長は署名を集め、市議会に能楽堂建設促進の請願書提出。

## 二、謡曲愛好団体「三代会」の取り組み

「会津能楽堂への道」なる冊子にまとめていて、その内容は、「三代会」の指導者であった中村寿男氏によって会津能楽会総会にも伝えられた。

## 三、会津能楽会と三代会との座談会開催

テーマ「能楽堂建設への展望を語る」とした座談会は中村寿男氏の仲介によって開催された。座談会の次第内容は次の通り。  
開催日時、平成十一年九月三日  
場所、「田事」

出席者、保志昭一 本田忠一  
満田政巨 市橋治男 松川善之助  
中村寿男 庄條静雄 丸山一郎  
平山 昇 玉川おくに 吉田幸子

この座談会の様子は能楽会会報第三号に詳細に掲載され、状況は平成十二年二月の会津能楽会総会でも報告された。

## 動き出した建設運動

### 一、会津能楽堂建設推進委員会設立（平成十二年八月）

三代会と能楽会との座談会の合意を受けて会津能楽堂建設推進委員会の中に実行委員会を設け、建設運動の組織・運営方針等について研究・討議を重ね推進委員会に答申することとした。中村寿男事務局長が中心になって人選した構成メンバーは次の通り。

推進委員  
三代会より…満田政巨 保志昭一  
市橋治男



完成した能楽堂（脇正面）

能楽会より、松川善之助 山田新八

中村寿男 丸山美伊子 小野木保

佐藤恒雄 瓜生正央 湯田眞佐弘

丸山一郎

（兼）実行委員会

鈴木圭介 本田忠一 星 英男

折笠成美 平山 昇 山田和彦

上野正義 岩澤和子 玉川おくに

渡部妙子

### 二、能楽堂建設実行委員会の活動

第一回は平成十二年十一月十八日、以後毎月一回の定例会。第二回十二月二日。

平成十三年は一月十三日、二月六日、三月十七日、八月四日、九月二十日、十一月二十九日であった。

実行委員会を継続的に開催し、法人立ち上げの趣意書・定款さらに基



金規定の作成、法人設立のための基金（最低三百万円）を集める方法について検討し、答申案を建設推進委員会に提示した。

三、推進委員会の活動は実行委員会の報告を質疑・応答、承認する形式で二回開かれている。

①十二年十二月二十三日 実行委員会の中間報告への質疑、承認。

②十三年八月四日 実行委員会の答申を承認。

その骨子は、  
・建設用地は鶴ヶ城周辺（ねらいはテニスコート場）。

・資金は民間資金とする。

・建設主体は法人「能楽堂建設協会」（定款、基金規定、趣意書案付）とする。

・完成後は会津若松市に寄付して維持管理して貰う。

・発起人は能楽関係者の他に広く財界人にもお願いする。

法人設立時の発起人は、設立のための資金の抛出や法人維持に責任が伴うことなどから、発起人選定は困難であった。法人設立には法の定めがあり、設立業務を進めるには法人についての研究が必要であり、また不況の中で企業からの資金調達は可能かなどの危惧もあり、法人設立・登記までに三年余の時間がかかった。

③民活による能楽堂建設の方針決定

平成十五年三月二十三日、能楽堂建設推進委員会が開かれ協会設立が決定した。

・当初の発起人は会津能楽会理事、同前理事、三日会会員とする。

・中間法人の当面の運転資金は会津能楽会が十〜十五万円程度抛出する。このことは会津能楽会理事会との協議（十五年五月十七日）で決まった。

・資本金（最少額三百万円）は会津能楽会、及び理事、三日会会員が抛出する。

四、「会津能楽堂建設協会」設立総会（十六年八月）

法人設立届出書を会津若松市長に提出（登記月日は十八年八月十八日）。

法人設立に要する出資金三百五万円は次の役員及び社員が抛出する。

代表理事（二名）  
松川善之助 満田政巨

理事（八名）

庄條静雄（十八年、後任に湯田眞

佐弘） 山田和彦 玉川おくに

平山 昇 折笠成美 伊東 正

上野正義 本田忠一

監事（三名）

鈴木圭介 岩澤和子 関 篤志

五、役員以外の協会員

佐藤ヨシカ 丸山一郎 小野木保  
湯田眞佐弘 星 英男 伊藤 毅

宮森京子 渡部妙子 田中富美子  
瓜生正央 丑米義弘 丸山美伊子  
佐藤恒雄 山田新八 吉田幸子  
野崎邦子 保志昭一 市橋延隆  
（定款に記載）

※なお、有限責任中間法人は法改正により中間法人が廃止されたため二十一年三月三日に「一般社団法人会津能楽堂建設協会」に変更された。

### 有限責任中間法人「会津能楽堂建設協会」の動き

一、建設協会の業務活動方針

①関係諸官庁・国・県・市町村議会に対する陳情・協力、指導要請。

②社員の加盟促進と建設資金の増加。

③能楽堂及び上演施設等の調査研究。

④能楽堂建設用地の選定。

⑤能楽堂の設計、予算、建設方法の選定。

⑥能楽堂建設に関する広報活動。

以後この方針に則って活動することを了承する。

毎月第四月曜日の夜に定例会を開き、右記の内容についての情報交換、意見交換を行った。特に②、④、⑤について

は、話題になることが多かった。見所を野外席とする能楽殿方式と建物の中に作る方式では建築費に大きな開きがある。会津は雪国のため能楽堂方式が望ましいとの意見が強かったが、なにしろ募金活動が思わしくないので、次第に野外の見所方式に傾いた。屋内式だと四億円かかる見積りで、用地の広さ、総工費、抛出金の状況から見所は野外の能楽堂になった。



会津能楽堂建設協会役員として10年間にわたり、「会津能楽堂」完成まで汗を流したメンバー



竣工式 高砂の舞  
観世流職分北浪昭雄師

二、社員総会  
定款により毎年五月開催（十七、十八、十九、二十、二十一年）。  
社員総会の内容 庶務報告、業務報告、貸貸対照表、損益計算書、剰余金処分計算書、理事の選任（必要な年のみ）等。

三、社員総会で報告された主な活動状況  
PR活動・市議会議員にリーフレット配布・自動車に貼付用の能楽堂建設宣伝ステッカー配布。

助成金について調査。拠出金が少なく、民活だけでは建築が難しいと考え、国、県、あるいは民間からの助成について、県庁に赴き、室井勝出納長の助言を受けて、日本財団（笹川財団）に相談・交渉に当たった。

たが、その見通しが立たなかった。また、農水省や商工労働省の補助事業も幾つか話題になったが、いずれも調べてみると対象外であった。建設用地の選定、用地決定まで市当局と度重なる折衝を繰り返した。

五、能楽堂建設用地確定の経緯

①建設候補地内示（十二月、市長との会談を重ねた結果、市長は候補地として、文化センター隣接地と県立博物館駐車場付近の土地を内示）  
②建設用地の決定  
ア、役員で候補地を視察し、十八年十二月の役員会で文化センター隣接地とすることを決定。  
イ、市から指示（十九年八月）により、市の用地に建設に当たって寄付採納確約書提出。

能楽堂建設工事の経過

一、設計について

有限会社桃季社（代表 秋月直道）と基本設計契約（十九年十二月）  
なお、役員は設計事務所と白石市・米沢市・登米町の能楽堂の資料を基に何度も打ち合わせを行った。特に宮城県登米町の能楽堂は参考になった。

二、会津若松市と会津能楽堂建設に

かかる協定書締結（二十年七月）

協定事項 ①全額会津能楽堂建設協会負担 ②施工条件 ③寄付採納

三、業者の選定（二十年九月）

会津土建、滝谷建設、秋山ユアピス建設の三社に見積依頼し、会津土建に決定。建設請負額は一億五百万円（※総工費ではない）。なお、屋根用素材の銅板は別途三菱伸銅より購入した。  
金額は二、七四五、六一八円。

四、工事関係行事

地鎮祭（二十年九月十二日）、上棟式（二十一年四月四日）、工事竣工式（同年八月八日）

五、会津能楽堂施設概要

所在地

会津若松市城東町十四番五十二号  
建設面積 二六〇・〇五平方米  
舞台―木造平屋建 入母屋造り、屋根―銅版 厚さ〇・四ミリ、一文字葺き、  
柱―松 四寸角、床板 桧巾一尺、長さ二十尺  
研修棟―柱 杉、四寸角、銅版厚さ〇・三五ミリ、横葺き  
なお、能舞台鏡板の絵は能面師富山南斎氏による。

総工費―一一四、三一八、一六八円

六、新築竣工式典（二十年八月八日）

①主催者あいさつ―松川代表理事、経過説明―本田理事、  
祝辞―会津若松市長菅家一郎

②感謝状贈呈 設計者／桃李社都市・建築設計事務所、

施工者―会津土建株式会社、能面師―富山南斎氏（会員）

③舞台披露

仕舞「高砂」観世流能楽師 北浪昭雄氏  
舞囃子「岩船」会津能楽会  
祝言小謡「鶴亀」能楽会会員全員

④祝賀会 五〇余名参加（鶴ヶ城会館）

⑤会津能楽堂竣工柁落し（二十一年八月二十一日）  
檜枝岐歌舞伎上演  
曲目「寿式三番叟、一乃谷嫩軍

記―須磨の浦の段」  
財団法人温知会会津中央病院の特  
別協賛によって実施。

⑥会津能楽堂の寄付採納に関する覚書調印式

日時 平成二十一年八月十九日  
場所 会津能楽堂  
調印者

一般社団法人会津能楽堂建設協会  
代表理事 松川善之助 満田政巨  
受領者 会津若松市長 菅家一郎  
調印立会い 教育長・教育部長



## 基金調達の状況

### 一、会津能楽会の動向

①会津能楽会では、会員の年次積立金及び能楽堂建設資金（能楽会の活動のために個人的に寄付された資金）があり、あわせて七八四万円を拠出。

②会員は、家族親類縁者、町内、集落の隣人、知人、職場の同僚、県内外の能楽関係者にも働きかけて拠出金を集めた。

③能楽会グループごとに人数×一〇万円の目標額を設定し、基金を拠出することにした結果、グループで七〇〇万円余を集めた事例もある。能楽会員一〇〇余名、一、〇〇〇万円の目標額を大きく突破し、二、三〇〇万円余の拠出金となった。組織で動く力は大きかった。

### 二、法人の理事・監事の動向

役員全員が個人として、あるいは役員会として会津全域や県内外のあらゆる方面に拠出金を呼びかけた。とりわけ幅広い人脈を有する満田代表理事に負うところ大であった。

寄附金控除の手続きを受けるため、本田・山田理事が仙台国税局に赴き、手続きを完了した結果、平成二十年九月一日～二十一年八月三十一日の期間限定の控除が認められた。

そのため、「会津能楽堂期成同盟」

が組織された。

拠出金の人数状況（平成十六年～二十一年）

会津管内 個人二、二一五人

事業所等 二五八

県内（会津以外） 個人一八九人

事業所等 一八

県外 個人二七九人

事業所等 一六

個人及び各事業所の寄付金額については永久保存可能なファイルに納められ、会津能楽堂に保管されている（希望により閲覧可）。

三、拠出金の総額（永久保存ファイルによる）

個人総計 七二、二五六、五三八円  
事業所及び団体総計

四二、一七五、七一八円

## 法人の解散

平成二十一年十一月十七日、社員総会で決議。同年一月二十一日登記、同日法人閉鎖。

資金調達上、事業推進に大きな力を発揮したのは満田政巨氏である。

また、膨大な事務処理を行ったのは本田忠一氏であった。お二人に皆様とともに心より感謝申し上げます。

（文責―平山昇）



会津能楽堂竣工式 全員による「祝謡」

# 下 さ る 能 楽 師 の 方 々

50音順

## <シテ方>

たけだ たかし  
**武田 孝史**



宝生流 シテ方  
昭和29年生  
重要無形文化財能楽総合指定保持者  
喜宝会 主宰  
平成 6 年より  
喜宝会 会津代表 稲村忠兵エ  
父武田喜永師が昭和56年 4 月より  
会津喜宝会として謡・仕舞を平成  
5 年迄指導する。

おぐら としかつ  
**小倉 敏克**



宝生流 シテ方  
昭和21年生  
重要無形文化財能楽総合指定保持者  
輝雲会 主宰  
昭和62年より会津輝雲会を継ぎ、  
現在に至る  
輝雲会 会津代表 一条正夫  
父輝泰師は昭和47年より会津輝雲  
会として会津の謡仕舞の指導。昭  
和62年(没)。

たさき りゅうぞう  
**田崎 隆三**



宝生流 シテ方  
昭和24年生  
重要無形文化財能楽総合指定保持者  
宝隆会 主宰  
昭和49年より喜多方市方部を対象  
に指導、現在に至る。  
宝隆会 会津代表 北見保則

きたなみ あきお  
**北浪 昭雄**



観世流 シテ方  
昭和10年生  
重要無形文化財能楽総合指定保持者  
昭諷会 主宰  
昭和46年より  
昭諷会 会津代表 湯田眞佐弘

のづき さとし  
**野月 聡**



宝生流 シテ方  
昭和45年生  
聡雲会 主宰  
平成23年より(寺井良雄能楽師の  
稽古場を引き継ぐ)  
聡雲会 会津代表 玉川おくに  
寺井良雄宝生流能楽師(平成22年  
没)は龍宝会を主宰し、昭和43年  
1 月より謡・仕舞の指導にあたっ  
た。

きはら やすゆき  
**木原 康之**



観世流 シテ方  
昭和36年生  
重要無形文化財能楽総合指定保持者  
交友会・木原康謡会 主宰  
平成 2 年より  
交友会 会津代表 宮森京子  
会津地方における観世流愛好者を  
指導育成し、功績をあげられた指  
導者に志賀幸子師範(幸謡会主宰)  
がいる(平成24年 2 月13日没)。

まえだ ちかこ  
**前田 親子**



宝生流 シテ方  
昭和13年生  
宝円会 主宰  
平成 9 年より  
宝円会 会津代表 瓜生光子

さ の のぼる  
**佐野 登**



宝生流 シテ方  
昭和35年生  
重要無形文化財能楽総合指定保持者  
芝宝会 主宰  
平成22年より  
芝宝会 会津代表 山口乃子

# 会津の能楽をご指導

みづかみ ゆたか  
水上 優



宝生流 シテ方  
昭和47年生  
掬水会 主宰  
平成14年より  
掬水会 会津代表 伏見幸雄

みづかみ てるかず  
水上 輝和



宝生流 シテ方  
昭和17年生  
重要無形文化財能楽総合指定保持者  
みやび会 主宰  
昭和42年より  
みやび会 会津代表 平山昇  
佐野萌宝生流能楽師のいづみ会の  
代稽古として度々来若し、その後  
昭和50年に会津若松みやび会を発  
足した。

## <囃子方>

すみこま まさひこ  
住駒 匡彦



幸流 小鼓方  
昭和39年生  
重要無形文化財能楽総合指定保持者  
△○会 主宰  
平成16年より、父の後会津△○会  
を継承し、現在に至る。  
△○会 会津代表 折笠成美  
父住駒昭弘能楽師（幸流小鼓方）  
が昭和32年より会津△○会を主宰  
し、小鼓の指導にあたる。

かみじょう よしき  
上條 芳暉



葛野流 大鼓方  
昭和4年生  
重要無形文化財能楽総合指定保持者  
会津大鼓の会 主宰  
昭和63年より会津大鼓会を発足、  
大鼓の指導にあたる。  
会津大鼓の会 会津代表 平山昇

てらい ひろあき  
寺井 宏明



森田流 笛方  
昭和42年生  
重要無形文化財能楽総合指定保持者  
龍風会 主宰  
平成7年より啓之師の後を継承し  
現在に至る  
龍風会 会津代表 山田和彦  
森田流笛方寺井啓之師は昭和36年  
より龍風会として笛の指導にあた  
られた。宏明師は孫にあたる。

こう しんご  
幸 信吾



幸流 小鼓方  
昭和32年生  
重要無形文化財能楽総合指定保持者  
鳴瀧会 主宰  
平成20年より  
鳴瀧会 会津代表 佐藤ヨシカ

## 会津で御指導された能楽師物故者

- |    |    |         |
|----|----|---------|
| 小倉 | 輝泰 | シテ方     |
| 佐野 | 萌  | シテ方     |
| 住駒 | 昭弘 | 幸流 小鼓方  |
| 武田 | 喜永 | シテ方     |
| 寺井 | 啓之 | 森田流 笛方  |
| 寺井 | 良雄 | シテ方     |
| 松本 | 章  | 金春流 太鼓方 |

こんばる くにかず  
金春 國和



金春流 太鼓方  
昭和32年生  
重要無形文化財能楽総合指定保持者  
太鼓の会 主宰  
平成19年より松本師のあとを引き  
継ぎ、指導にあたる。  
太鼓の会 会津代表 佐藤ヨシカ  
松本章金春流太鼓方能楽師（新潟  
市）が、昭和55年11月より会津松  
風会を発足して、会津方部の太鼓  
の指導にあたった（平成18年没迄）。



# 会津若松市教育委員会表彰おめでとうございます 文化芸術功労賞に輝いた先輩



平成23年度  
能楽堂建設の  
道を拓く

中村 壽男

○会津鶴ヶ城薪能十周年記念行事（平成七年）、能フォーラム開催実行委員会委員長として手腕を発揮。

○第一回和楽会に参加（昭和三十年）。

○会津能楽堂建設及び能装束補充（昭和六十年）基金創設に率先して協力。

○会津若松鶴ヶ城天守閣再建三十周年記念特別展に「能面・能装束」を展示協力。

○市制一〇〇周年に市より表彰状を受賞（平成十一年）。

○会津能楽堂建設から完成まで積極的に参加。

○謡曲グループ「三日会」の謡曲指導を永年続け、能楽堂建設への道を拓き実現させた（平成二十二年）。

○会津能楽囃子会発足に尽力。

○演能では地頭を長年にわたりつとめ、地方の育成に貢献している。

宝生流教授嘱託免許取得  
（昭和44年6月）  
会津若松市相生町5-3  
社中 拍々会 主宰  
会津能楽会入会（昭和29年）  
会員歴59年  
会津能楽会役員歴  
理事・事務局長・副会長  
等歴任



平成20年度  
能装束の  
華を咲かせて

丸山美伊子

○能装束の着付管理に手腕を発揮し、舞台の芸術効果を一層向上させる役割を果たす。着付部員の指導育成に心掛けてきた。

○桃仙会を主宰し、後継者・初心者育成に努力された。

○市制一〇〇周年に、市より表彰状を受賞（平成十一年）。

○会津鶴ヶ城薪能十周年記念事業（平成七年）、能フォーラム開催実行委員会副実行委員長。

○教職の時、会津女子高校に能楽クラブを誕生させた。全国へ発信、話題となる。

○種々の役職をこなしながら、会津能楽会主催の春・秋の演能に出演し、能楽愛好者や一般市民に幽玄の世界を広くアピール、能文化の振興に寄与した。



宝生流教授嘱託免許取得  
（昭和53年11月）  
会津若松市南千石町2-10  
社中 桃仙会 主宰  
会津能楽会加入年（昭和40年）  
会津能楽会役員歴49年  
会津能楽会役員歴  
理事（昭和46年〜）、能装束  
着付管理部長歴任



平成19年度  
輝かしい功績

丑米 義弘

○会津の伝統芸能である能楽の道を先がける。二〇代より学び、会津能楽会に加入し、貴重な若手会員として活躍し、現在の会津能楽会の発展の基盤づくりをし、昭和三十九年に優良団体として会津若松市教育委員会より表彰を受ける。

○初心者の育成につとめ、和楽会に加入し、代表幹事として和楽会一〇〇回記念発表会を達成した（平成十九年）。

○文化庁主催移動芸術祭「能」の公演にあたり、実行委員として公演成功に導いた。

○会津まつり観光協会との連携により、会津鶴ヶ城薪能の開催を成功させた（昭和六十一年）。

○会津能楽会主催の演能会に出演し能を演じ、能楽愛好者や一般市民に幽玄の世界を堪能させ、積極的に能の芸術文化の振興に努めた。

宝生流教授 嘱託免許取得  
（昭和36年9月）  
市内行仁町11-19  
社中 宝友会 主宰  
会津能楽会加入年（昭和28年）  
能楽会会員歴60年  
会津能楽会役員歴等  
理事（44年〜）、庶務、理事、  
事務局長歴任  
会津文化団体連絡協議会役員  
理事、事務局長、監事歴任  
宝生流教授嘱託会 会津方部会長（五期）

# 演能の記録

—平成十五年—二十三年—

## 平成十五年

### 春の演能

五月二十五日(日)

会津若松市文化センター

#### 「竹生島」



前シテ	一条	正夫
後シテ	伊東	正
ワキ	鈴木	直寿
天女	森田	ルリ子
ツレ	宇田	宣子

囃子 大鼓 山田 風月

小鼓 折笠 成美

太鼓 佐藤 馨

笛 石田 桂子

地謡 中村 寿男 佐藤 恒雄

針生 博 稲村忠兵エ

佐藤 昌一 平林 光雄

有我 嘉雄 佐藤 實

後見 松川善之助 岸 栄一郎

平山 昇 三須 賢二

内藤 富雄 上野 正義

#### 「雲雀山」



前シテ 古田 豊子  
後シテ 石田セツ子  
ワキ 松尾 幸生  
ワキツレ 船木 真一  
子方 小島原駿介

囃子 大鼓 坂内 庄一

小鼓 阿部 晃司

笛 野崎 邦子

地謡 玉川おくに 浜崎 幸子

瓜生 光子 五十嵐常子

大塚 利衛 金川 照子

堀 篤子 山田ミヤ子

後見 丑米 義弘 小野木 保

丸山 一郎 鈴木 直寿

伊東 正

### 第十七回

#### 会津鶴ヶ城「新能」

九月二十三日(祝)

鶴ヶ城本丸特設舞台

笛 野崎 邦子

地謡 中村 寿男 針生 博  
稲村忠兵エ 佐藤 昌一  
佐藤 信英 平林 光雄  
一条 正夫 鈴木 直寿



後見 松川善之助 丑米 義弘

岸 栄一郎 小野木 保

折笠 成美 丸山 一郎

#### 「羽衣」

シテ 志波 幸世  
ワキ 坂内 庄一  
ワキツレ 佐藤 實

囃子 大鼓 山田 風月

小鼓 阿部 晃司

太鼓 佐藤 馨

秋の演能

十一月九日(日)

会津若松市文化センター

「女郎花」

前シテ 岩瀬 健一  
 後シテ 玉川おくに  
 ツレ 渡部 妙子  
 ワキ 平山 昇

囃子 大 鼓 坂内 庄一  
 小 鼓 折笠 成美  
 太 鼓 一条 正夫  
 笛 堀 篤子

地謡 佐藤ヨシカ 浜崎 幸子  
 大塚 利衛 石田セツ子  
 馬場 幸子 宇田 宣子  
 星 茂登美 和田 保子



後見 丑米 義弘 小野木 保  
 丸山 一郎

半能「小督」

シテ 折笠 成美  
 小 督 渡辺ヒロ子  
 ツレ 五十嵐常子

囃子 大 鼓 船木 真一  
 小 鼓 阿部 晃司  
 笛 山田 和彦

地謡 中村 寿男 伊藤 毅  
 稲村忠兵エ 丸山 一郎  
 角田喜久雄 平林 光雄  
 佐藤 實 渡部 測行



後見 松川善之助 岸 栄一郎  
 伊東 正 上野 正義  
 内藤 富雄 坂内 庄一

平成十六年

春の演能

五月三十日(日)

会津若松市文化センター

「田村」



前シテ 一条 正夫  
 後シテ 佐藤ヨシカ  
 ワキ 有我 嘉雄  
 ワキツレ 伊東 正

囃子 大 鼓 船木 真一  
 小 鼓 折笠 成美  
 笛 角田久美子

地謡 中村 寿男 平林 光雄  
 稲村忠兵エ 佐藤 昌一

後見 佐藤 信英 鈴木 直寿  
 星 英男 上野 正義  
 丑米 義弘 小野木 保  
 平山 昇

「藤」



前シテ 瓜生 光子  
 後シテ 馬場 律子  
 ワキ 松尾 幸生  
 ワキツレ 船木 真一

囃子 大 鼓 坂内 庄一  
 小 鼓 阿部 晃司  
 太 鼓 佐藤 馨  
 笛 山田 和彦

地謡 玉川おくに 五十嵐常子  
 石田セツ子 志波 幸世  
 古田 豊子 金川 照子  
 堀 篤子 山田ミヤ子

後見 松川善之助 岸 栄一郎  
 丸山 一郎



第十八回

会津鶴ヶ城「薪能」

九月二十三日(祝)  
鶴ヶ城本丸特設舞台

「西王母」



囃子	前シテ	古田 豊子
大鼓	後シテ	森田ルリ子
小鼓	子方	柳内 優佳
太鼓	ワキ	岩淵 健一
笛	ワキツレ	大橋 西助
山田 和彦	坂内 庄一	折笠 成美
一条 正夫	伊東 正	皆川 米作

地謡

中村 寿男	伊藤 毅
稲村忠兵エ	佐藤 昌一
佐藤 信英	鈴木 圭介
青山 伯	船木 真一

後見

松川善之助	丑米 義弘
岸 栄一郎	丸山 一郎
小野木 保	伊東 正

秋の演能(半能)

十月十一日(祝)  
会津若松市文化センター

「玉葛」

シテ	野崎 邦子
ワキ	上野 正義



囃子

大鼓	山田 風月
小鼓	折笠 成美
笛	五十嵐久子

地謡

佐藤ヨシカ	玉川おくに
瓜生 光子	五十嵐常子
志波 幸世	渡部 妙子
古田 豊子	石田セツ子
金川 照子	山田ミヤ子

後見

丑米 義弘	丸山 一郎
-------	-------

「須磨源氏」



囃子

大鼓	船木 真一
小鼓	阿部 晃司
太鼓	佐藤 馨
笛	山田 和彦

地謡

中村 寿男	針生 博
平山 昇	平林 光雄
角田喜久雄	岩淵 健一
有我 嘉雄	佐野 健一

後見

松川善之助	岸 栄一郎
小野木 保	

鏡の間



平成十七年

春の演能

五月二十二日(日)  
会津若松市文化センター

「東北」



前シテ 石田セツ子  
後シテ 古田 豊子  
ワ キ 伊東 正

囃子 大 鼓 船木 真一  
小 鼓 阿部 晃司  
笛 野崎 邦子

地謡 佐藤ヨシカ 瓜生 光子  
五十嵐常子 志波 幸世  
宇田 宣子 金川 照子  
和田 保子 大野千佳子

「黒塚」

後見 松川善之助 丑米 義弘  
上野 正義



前シテ 玉川おくに  
後シテ 平山 昇  
ワ キ 船木 真一  
ワキツレ 木村 武晴

囃子 大 鼓 坂内 庄一  
小 鼓 折笠 成美  
太 鼓 佐藤 馨  
笛 山田 和彦

地謡 中村 寿男 伊藤 毅  
稲村忠兵エ 佐藤 昌一  
佐藤 信英 平林 光雄  
鈴木 圭介 星 英男

後見 松川善之助 岸 栄一郎  
小野木 保 丑米 義弘  
伊東 正 上野 正義  
一条 正夫

第十九回  
会津鶴ヶ城「新能」

九月二十三日(祝)  
鶴ヶ城本丸

「小袖曾我」



シテ 一条 正夫  
五郎 船木 真一  
母 渡部 妙子  
トモ 鈴木 圭介  
団三郎 伊東 正  
鬼王 青山 伯

囃子 大 鼓 坂内 庄一  
小 鼓 折笠 成美  
笛 山田 和彦

地謡 中村 寿男 稲村忠兵エ  
佐藤 昌一 岩渕 健一  
角田喜久雄 佐野 健一  
上野 正義 佐藤 信英

後見 松川善之助 丑米 義弘  
小野木 保

秋の演能

十月十日(祝)  
会津若松市文化センター

「経政」



平成十八年

春の演能

五月二十一日(日)  
会津若松市文化センター

「土蜘蛛」



囃子 大鼓 船木 真一

小鼓 折笠 成美

太鼓 一条 正夫

笛 山田 和彦

地謡 中村 寿男 平林 光雄

稲村 忠兵エ 佐藤 昌一

青山 伯 佐野 健一

渡部 藤之丞 星 昭

後見 松川 善之助 丑米 義弘

岸 栄一郎 上野 正義

第二十回

会津鶴ヶ城「新能」

九月二十三日(祝)

「小鍛冶」



囃子 大鼓 船木 真一

小鼓 阿部 晃司

太鼓 森田ルリ子

笛 山田 和彦

地謡 玉川おくに 大塚 利衛

石田セツ子 五十嵐常子

遠藤ヒロ子 山田ミヤ子

山垣美枝子 宗像 真弓

後見 佐藤ヨシカ 瓜生 光子

星 茂登美

ワキツレ 荒川 勝

囃子 大鼓 山田 風月

小鼓 折笠 成美

笛 堀 篤子

地謡 中村 寿男 伊藤 毅

稲村 忠兵エ 平林 光雄

上野 正義 皆川 米作

渡部 藤之丞 鈴木 直寿

後見 丑米 義弘 小野木 保

平山 昇

「葛城」



シテ 坂内 庄一

ワキ 松尾 幸生

前シテ 野崎 邦子

後シテ 渡辺ヒロ子

ワキ 有我 嘉雄

仕舞 23年秋の演能「熊野クセ」

山垣 菜桜子 (小学生)





前シテ 折笠 成美  
 後シテ 船木 真一  
 ワ キ ツ レ 平山 昇  
 ワ キ ツ レ 有我 嘉雄

囃子 大 鼓 坂内 庄一  
 小 鼓 阿部 晃司  
 太 鼓 一条 正夫  
 笛 山田 和彦

地 謡 中村 寿男 平林 光雄  
 稲村忠兵エ 佐藤 昌一  
 佐野 健一 佐藤 信英  
 松尾 幸生 鈴木 直寿

後 見 松川善之助 丑米 義弘  
 小野木 保 上野 正義

**秋の演能**

十一月四日(土)  
 会津若松市文化センター

**「紅葉狩」**

前シテ 渡部 妙子  
 後シテ 坂内 庄一  
 ツ レ 大野千佳子  
 〃 山垣美枝子  
 ワ キ ツ レ 平山 昇  
 ワ キ ツ レ 青山 伯

囃子 大 鼓 船木 真一  
 小 鼓 折笠 成美



太 鼓 森田ルリ子  
 笛 山田 和彦

地 謡 佐藤ヨシカ 玉川おくに  
 浜崎 幸子 大塚 利衛  
 古田 豊子 宇田 宣子  
 渡辺ヒロ子 五十嵐常子

後 見 松川善之助 丑米 義弘  
 岸 栄一郎 小野木 保  
 伊東 正 一条 正夫

平成十九年

福島県立博物館 四季の  
 イベント公演「桜能」

四月二十一日(土)  
 福島県立博物館特設舞台

**「胡蝶」**



前シテ 渡部 静子  
 後シテ 堀 篤子  
 ワ キ ツ レ 有我 嘉雄

囃子 大 鼓 坂内 庄一  
 小 鼓 折笠 成美  
 太 鼓 一条 正夫  
 笛 山田 和彦

地 謡 佐藤ヨシカ 吉田 幸子  
 瓜生 光子 浜崎 幸子  
 石田セツ子 山垣美枝子  
 宇田 宣子 五十嵐久子

後 見 小野木 保 丑米 義弘  
 玉川おくに 上野 正義

第二十一回  
 会津鶴ヶ城「新能」

九月二十三日(祝)  
 鶴ヶ城本丸特設舞台

**「猩々」**



シ テ 坂内 庄一  
 ワ キ ツ レ 佐野 健一



「羽衣」

上村松園展  
「近代と伝統」

十月二十七日(土)  
福島県立美術館玄関特設舞台

後見	上野 正義	松川善之助	丑米 義弘
地謡	中村 寿男	岩淵 健一	佐藤 信英
笛	山田 和彦	一条 正夫	折笠 成美
囃子	大 鼓	小 鼓	太 鼓
	船木 真一	折笠 成美	一条 正夫

秋の演能

十一月四日(日)  
会津若松市文化センター

「羽衣」

後見	小野木和子	上野 正義	丸山美伊子
地謡	吉田 幸子	瓜生 光子	石田セツ子
笛	山田 智子	堀 篤子	静子
囃子	大 鼓	小 鼓	太 鼓
	坂内 庄一	折笠 成美	一条 正夫



後見	松川善之助	上野 正義
地謡	中村 寿男	平林 光雄
笛	角田喜久雄	鈴木 直寿
囃子	大 鼓	小 鼓
	坂内 庄一	折笠 成美

平成二十年

春の演能

五月二十五日(日)  
会津若松市文化福祉センター文化ホール

「敦盛」



後見	前シテ	一条 正夫
地謡	後シテ	折笠 成美
笛	ツレ	鈴木 圭介
囃子	ワ	青山 伯
	〃	平山 昇

地 謡

中村 寿男 平林 光雄  
 伊東 正 佐藤 信英  
 松尾 幸生 上野 正義  
 渡部 測行 佐野 健一



後 見

丑米 義弘 小野木 保  
 鈴木 直寿 船木 真一

第二十二回  
 会津鶴ヶ城「新能」・半能

九月二十三日(祝)  
 鶴ヶ城本丸特設舞台

「岩船」

シ テ 平山 昇  
 ワ キ 佐野 健一  
 ツレ 佐藤 信英  
 皆川 米作

囃 子

大 鼓 坂内 庄一  
 小 鼓 折笠 成美  
 太 鼓 一条 正夫  
 笛 山田 和彦

地 謡

中村 寿男 佐藤 昌一  
 平林 光雄 上野 正義  
 有我 嘉雄 松尾 幸生  
 鈴木 直寿

後 見

松川善之助 丑米 義弘  
 小野木 保



秋の演能

十一月二十九日(土)  
 会津若松市文化センター

「小督」

シ テ 伊東 正  
 小 督 古田 豊子  
 待 女 宇田 宣子

囃 子

大 鼓 船木 真一  
 小 鼓 浅見 晃司  
 笛 浜崎 幸子

地 謡

中村 寿男 佐藤 信英  
 平林 光雄 上野 正義  
 渡部 測行 佐野 健一  
 皆川 米作 青山 伯  
 松川善之助 丑米 義弘  
 小野木 保 松尾 幸生  
 木村 武晴 荒川 勝

後 見



平成二十一年

春の演能

五月二十四日(日)  
 会津若松市文化福祉センター文化ホール

「藤」



囃 子

大 鼓 船木 真一  
 小 鼓 折笠 成美  
 太 鼓 一条 正夫  
 笛 山田 和彦

前シテ 山垣美枝子  
 後シテ 五十嵐久子  
 ワ キ 坂内 庄一  
 ツレ 荒川 勝





ワシテ 船木 真一  
ワキ 一条 正夫  
ツレ 木村 武晴

「八島」

第二十三回  
会津鶴ヶ城「薪能」・半能

九月二十三日(祝)  
会津能楽堂

地謡	佐藤ヨシカ	玉川おくに
	浜崎 幸子	石田セツ子
	志波 幸世	古田 豊子
	広谷 元子	大野千佳子
後見	丑米 義弘	小野木 保
	伊東 正	上野 正義



「土蜘蛛」

秋の演能

十一月一日(日)  
会津能楽堂

囃子	大鼓	坂内 庄一
	小鼓	折笠 成美
	笛	山田 和彦
地謡	中村 寿男	平山 昇
	平林 光雄	佐藤 信英
	上野 正義	皆川 米作
	松尾 幸生	佐野 健一
後見	松川善之助	丑米 義弘
	小野木 保	

ワシテ 船木 真一  
ワキ 一条 正夫  
ツレ 木村 武晴

「八島」・半能

十一月二十九日(日)  
福島県文化センター

「ふくしま文化元氣  
ルネッサンス事業」

後見	松川善之助	岸 栄一郎
	丑米 義弘	小野木 保
	荒川 勝	木村 武晴
囃子	大鼓	船木 真一
	小鼓	折笠 成美
	太鼓	一条 正夫
	笛	山田 和彦
地謡	中村 寿男	平山 昇
	佐藤 昌一	平林 光雄
	佐野 健一	有我 嘉雄
	星 英男	渡部 伸



仕舞 23年度秋の演能  
「猩々」渡部 蛭(小学生)

囃子	大鼓	坂内 庄一
	小鼓	折笠 成美
	笛	山田 和彦
地謡	中村 寿男	平山 昇
	平林 光雄	佐藤 信英
	角田喜久雄	皆川 米作
	上野 正義	佐野 健一
後見	佐藤ヨシカ	伊東 正

平成二十二年

春の演能

五月二十三日(日)  
会津能楽堂

「草紙洗」



地 謡

佐藤ヨシカ 瓜生 光子  
浜崎 幸子 広谷 元子  
渡部 静子 遠藤ヒロ子  
山垣美枝子 宇田 宣子



後 見

丑米 義弘 小野木 保  
上野 正義 小野木和子  
堀 篤子

第二十四回

会津鶴ヶ城「新能」

九月二十三日(祝)  
会津能楽堂

「枕慈童」

シ テ 折笠 成美  
ワ キ 一条 正夫  
ワ キツレ 皆川 米作  
角田 恒雄

囃 子

大 鼓 船木 真一  
小 鼓 浅見 晃司  
太 鼓 佐藤 馨  
山田 和彦

地 謡

中村 寿男 平山 昇  
平林 光雄 有我 嘉雄  
渡部 伸 鈴木 直寿  
相田 幸三 上野 正義



後 見

丑米 義弘 小野木 保  
伊東 正 佐野 健一  
木村 武晴 荒川 勝

秋の演能

十月二十四日(日) 会津能楽堂  
「松虫」

「松虫」

前シテ 鈴木 圭介  
後シテ 佐藤ヨシカ  
ツ レ 木村 武晴  
ワ キ 荒川 勝  
伊東 正

囃 子

大 鼓 坂内 庄一  
小 鼓 折笠 成美  
山田 和彦

地 謡

中村 寿男 佐藤 信英  
平林 光雄 一条 正夫  
相良 實 皆川 米作  
星 英雄 相田 幸三



後 見

松川善之助 丑米 義弘  
小野木 保 佐野 健一

平成二十三年

春の演能

五月二十九日(日) 会津能楽堂

「杜若」  
かきつばた



シ テ 栗城 幸子  
ワ キ 上野 正義

囃子 大 鼓 坂内 庄一  
小 鼓 折笠 成美  
太 鼓 一条 正夫  
笛 山田 和彦  
地謡 佐藤ヨシカ 玉川おくに  
瓜生 光子 浜崎 幸子  
古田 豊子 山垣美枝子  
渡辺ヒロ子 渡部 静子  
広谷 元子 宇田 宣子

後見 丑米 義弘 小野木 保

伊東 正

第二十五回

会津鶴ヶ城「新能」

九月二十三日(祝)

会津能楽堂

「西王母」



前シテ 秋本 征子  
後シテ 古田 豊子  
ワ キ 佐藤 信英  
ワキツレ 松尾 幸生  
子 方 佐藤 響

囃子 大 鼓 船木 真一  
小 鼓 折笠 成美  
太 鼓 一条 正夫  
笛 山田 和彦

地謡 中村 寿男 平山 昇

上野 正義 平林 光雄

有我 嘉雄 星 英男

渡部 伸 木村 武晴

角田 恒雄 鈴木 直寿

伊東 丑米 義弘 小野木 保

荒川 勝 坂内 庄一

秋の演能

十月二十三日(日)

会津能楽堂

「紅葉狩」



前シテ 坂内 庄一  
後シテ 木村 武晴  
ツレ 佐藤 仁  
相良 實

ワ キ 平山 昇  
ワキツレ 鈴木 圭介

囃子 大 鼓 船木 真一

小 鼓 折笠 成美

太 鼓 佐藤 馨

地謡 中村 寿男 佐藤 信英

坂内 實 洪川 兼三

星 英男

後見 丑米 義弘 小野木 保

伊東 正 上野 正義

荒川 勝

「お調べ」で能がはじまる



(文責—折笠成美 写真—鈴木圭介)



# 役員名簿 (年度別一覽)

平成十五年十二月現在

(平成十五年二月十一日改選)

会長	松川 善之助
副会長	中村 寿男 (事務局長)
理事	山田 和彦
〃	庄 條 静雄
〃	玉川 おくに (庶務)
〃	佐藤 ヨシカ
〃	丸山 一郎
〃	小野木 保
〃	折笠 成美
〃	平山 昇
〃	湯田 眞佐弘
〃	星 英男 (会計)
〃	伊東 正 (会計)
〃	鈴木 圭介
〃	伊藤 毅
〃	針 生 博
監事	宮 森 京子

### ◎委員会構成

#### 演能企画委員会

○中村寿男 山田和彦 玉川おくに

佐藤ヨシカ 平山 昇

#### 財産管理委員会

○山田和彦 小野木保 丸山一郎

佐藤ヨシカ 折笠成美 伊東 正

#### 能装束着付部

○丸山美伊子 岸栄一郎 佐藤ヨネ

小野木和子 森田ルリ子

#### 広報委員会

○庄條静雄 伊藤 毅 湯田眞佐弘

玉川おくに 星 英男 鈴木圭介

ホームページ作成委員会

○鈴木圭介 星 英男 佐藤恒雄

船木真一

#### 能楽堂建設実行委員会

○山田和彦 本田忠一 鈴木圭介

平山 昇 伊東 正 上野正義

折笠成美 玉川おくに 岩澤和子

渡部妙子

平成十七年十二月現在

(平成十七年二月十一日改選)

会長	山田 和彦
副会長	佐藤 ヨシカ
理事	湯田 眞佐弘
〃	小野木 保
〃	折笠 成美 (事務局長)
〃	玉川 おくに (庶務)
〃	上野 正義 (庶務)
〃	星 英男 (会計)
〃	伊東 正 (会計)
〃	平山 昇
〃	鈴木 圭介
〃	伊藤 毅
〃	木村 玲子
〃	岩澤 和子
監事	佐藤 昌一

### ◎委員会構成

#### 演能企画委員会

○佐藤ヨシカ 小野木保 折笠成美

玉川おくに 平山 昇 伊東 正

伊藤 毅

#### 財産管理委員会

○小野木保 佐藤ヨシカ 折笠成美

玉川おくに 伊東 正 上野正義

#### 能装束着付部

○丸山美伊子 岸栄一郎 佐藤ヨネ

小野木和子 森田ルリ子 松川善之助

折笠成美 瓜生光子 石田セツ子

佐藤ヨシカ 玉川おくに 渡部妙子

堀 篤子 渡辺ヒロ子 五十嵐常子

五十嵐久子 古田豊子 山田ミヤ子

浜崎幸子 坂内庄一

#### 広報委員会

○湯田眞佐弘 玉川おくに 伊藤 毅

星 英男 鈴木圭介 木村玲子

#### ホームページ作成委員会

○鈴木圭介 星 英男 石田桂子

船木真一

#### 育成委員会

○佐藤ヨシカ 折笠成美 平山 昇

伊藤 毅 長谷川桂子 一条正夫

坂内庄一

平成二十年一月現在

(平成十九年二月十一日改選)

会長	山田 和彦
副会長	佐藤 ヨシカ
理事	湯田 眞佐弘
〃	小野木 保
〃	折笠 成美 (事務局長)
〃	玉川 おくに (庶務)
〃	上野 正義 (庶務)
〃	伊東 正 (会計)
〃	木村 玲子 (会計)
〃	平山 昇
〃	鈴木 圭介
〃	佐野 健一
〃	佐藤 昌一
監事	岩澤 和子

### ◎委員会構成

#### 演能企画委員会 (九名)

○佐藤ヨシカ 小野木保 湯田眞佐弘

折笠成美 玉川おくに 平山 昇

伊東 正 佐野健一 小野木和子

#### 財産管理委員会 (九名)

○小野木保 佐藤ヨシカ 折笠成美

玉川おくに 伊東 正 上野正義

佐野健一 小野木和子 森田ルリ子

#### 能装束着付部 (二十五名)

○小野木和子 佐藤ヨシカ 吉田幸子

佐藤ヨネ 松川善之助 折笠成美

玉川おくに 石田セツ子 森田ルリ子

瓜生光子 渡部妙子 五十嵐常子

浜崎幸子 古田豊子 堀 篤子

山田ミヤ子 渡辺ヒロ子 五十嵐久子

会 長	山田 和彦
副会長	佐藤 ヨシカ
理 事	湯田 眞佐弘
”	折笠 成美(事務局長)
”	玉川 おくに(庶務)
”	上野 正義(庶務)
”	伊東 正(会計)
”	佐野 健一(会計)
”	平山 昇
”	鈴木 圭介
”	木村 玲子
”	一条 正夫
監 事	岩澤 和子
”	渡部 妙子

平成二十二年一月現在  
(平成二十一年二月十一日改選)

- 平山 昇 上野正義 一条正夫
- 坂内庄一 船木真一
- (指導) 丸山美伊子 岸栄一郎
- 広報委員会(十三名)
- 湯田眞佐弘 玉川おくに 鈴木圭介
- 木村玲子 佐野健一 小林 忠
- 長谷川桂子 渡部マサ子 浜崎幸子
- 山垣美伊子 岸栄一郎
- ホームページ作成委員会(三名)
- 鈴木圭介 石田桂子 船木真一
- 育成委員会(十二名)
- 佐藤ヨシカ 折笠成美 平山 昇
- 伊東 正 長谷川桂子 一条正夫
- 坂内庄一 浜崎幸子 五十嵐久子
- 堀 篤子 石田桂子 角田久美子

◎委員会構成

演能企画委員会(九名)

- 佐藤ヨシカ 小野木保 湯田眞佐弘
- 折笠成美 玉川おくに 平山 昇
- 伊東 正 佐野健一 小野木和子

財産管理委員会(九名)

- 小野木保 佐藤ヨシカ 折笠成美
- 玉川おくに 伊東 正 上野正義
- 一条正夫 小野木和子 森田ルリ子

能装束着付部(二十六名)

- 小野木和子 佐藤ヨシカ 栗城幸子
- 松川善之助 折笠成美 玉川おくに
- 石田セツ子 森田ルリ子 瓜生光子
- 渡部妙子 渡部静子 浜崎幸子
- 古田豊子 堀 篤子 山田ミヤ子
- 渡辺ヒロ子 五十嵐久子 平山 昇
- 上野正義 一条正夫 坂内庄一
- 船木真一 木村玲子 岩澤和子
- (指導) 丸山美伊子 岸栄一郎

広報委員会(十五名)

- 湯田眞佐弘 玉川おくに 鈴木圭介
- 木村玲子 佐野健一 鈴木直寿
- 小林 忠 河合正弘 長谷川桂子
- 渡部マサ子 浜崎幸子 山垣美枝子
- 堀 篤子 五十嵐久子 広谷元子

ホームページ作成委員会(三名)

- 鈴木圭介 石田桂子 船木真一

育成委員会(十二名)

- 平山 昇 折笠成美 佐藤ヨシカ
- 伊東 正 長谷川桂子 一条正夫
- 坂内庄一 浜崎幸子 五十嵐久子
- 堀 篤子 石田桂子 角田久美子

平成二十三年十二月現在  
(平成二十三年二月十一日改選)

会 長	佐藤 ヨシカ
副会長	湯田 眞佐弘
理 事	折笠 成美(事務局長)
”	平山 昇
”	玉川 おくに(庶務)
”	上野 正義(庶務)
”	伊東 正(会計)
”	鈴木 圭介
”	一条 正夫
”	小野木 和子
”	栗城 幸子
”	角田 久美子
監 事	岩澤 和子
”	渡部 妙子

◎委員会構成

演能企画委員会(十二名)

- 折笠成美 湯田眞佐弘 平山 昇
- 玉川おくに 上野正義 伊東 正
- 鈴木圭介 一条正夫 小野木和子
- 栗城幸子 角田久美子 山田和彦

財産管理委員会(十一名)

- 一条正夫 折笠成美 玉川おくに
- 上野正義 伊東 正 小野木和子

- 栗城幸子 角田久美子 山田和彦
- 森田ルリ子 坂内庄一

能装束着付部(二十四名)

- 小野木和子 折笠成美 平山 昇
- 玉川おくに 上野正義 一条正夫
- 栗城幸子 石田セツ子 森田ルリ子
- 瓜生光子 渡部妙子 渡部静子
- 浜崎幸子 古田豊子 堀 篤子
- 山田ミヤ子 渡辺ヒロ子 五十嵐久子
- 坂内庄一 船木真一 木村玲子
- 岩澤和子
- (指導) 丸山美伊子 岸栄一郎

広報委員会(十六名)

- 湯田眞佐弘 玉川おくに 伊東 正
- 鈴木圭介 角田久美子 山田和彦
- 鈴木直寿 小林 忠 河合正弘
- 長谷川桂子 渡部マサ子 浜崎幸子
- 山垣美枝子 堀 篤子 五十嵐久子
- 広谷元子

ホームページ作成委員会(四名)

- 鈴木圭介 栗城幸子 石田桂子
- 船木真一

育成委員会(十三名)

- 平山 昇 折笠成美 伊東 正
- 一条正夫 栗城幸子
- 角田久美子 山田和彦 長谷川桂子
- 坂内庄一 浜崎幸子 五十嵐久子
- 堀 篤子 石田桂子

# 能「土蜘蛛」の装束について

能装束の着付けについての原稿を依頼されましたので、皆様にはお馴染みの演目「土蜘蛛」を取り上げてみました。登場人物も多く出演されますし、お役によって着付けの方もそれぞれ異なって、着附部としては大変付けがいのある曲になります。

装束を着付ける前に各演者に、白肌着、白股下、白足袋を穿いてもらいます(ここまでは自分の物を使う)。次に、胴着(厚く綿を入れた白地の広襟下着)をつけ、その上に定め

色襟をつけます。胴着を着けた演者は、装束を付ける前は皆同じ姿になり着付けを待ちます。

曲の役柄によっては、面や装束を着付けると殆どスッポリ包み隠され、わずかに首筋や手首の一部が露出させているだけに着付けをしていきます(ツレ「侍女小蝶」がそうです)。

それぞれ装束を付けた演者は、鏡の間へ案内され、自分の出番を待ちます。これから謡本「装束附の頁」をよく目を通していただき、演者の装束、その名称、面、持物など写真と合せながら拝見して下さいと興味も違って見えてくるかもしれません。

## 「土蜘蛛」装束附

### 前シテ(僧)

沙門帽子をかぶり、厚板を着、白大口をはき、上に水衣を着て腰帯をしめる。

### 後シテ(土蜘蛛の精)

赤頭又は黒頭をつけ鬘の面をかける。厚板を着附に着、半切をはき、上に袷法被を着て、腰

帯をしめる。

(持物―打杖、蜘蛛の巣)  
ツレ(源頼光)

黒風折烏帽子をいただき、厚板を着附に着、白大口をはき、上に長絹を着て腰帯をしめる。肩より縫箔を覆う。掛小袖。

(持物―扇)  
ツレ(侍女小蝶)

鬘をつけ、腰帯をしめ、小面の面をかける。摺箔を着附に着、上に唐織を着る。

ツレ(従者)

無地熨斗目を着附に着、素袍上下(すおうかみしも)を着て、小刀をさす。

(持物―扇、太刀)  
前ワキ(一人武者)

折烏帽子をいただき、厚板を着附に着、白大口をはき、上に掛直垂を着て腰帯をしめ、小刀をさす。

後シテ

白鉢巻をしめ、厚板を着附に着、白大口をはき、上に袷法被を着て腰帯をしめる。

(持物―太刀)  
立衆(従者二、三人)

白鉢巻をしめ、

○平成15年度	橋掛かり欄干	132,133円
○平成16年度	紅白鼓厚板	670,525円
	大鼓白峰皮	151,055円
	素襖2着	400,315円
○平成18年度	中啓	45,050円
	かやつり草長絹	290,000円
	長絹つけ	43,630円
	薪能用白丁セット	33,150円
	薪能用雪駄	2,100円
○平成22年度	中啓	49,250円
	水衣2着	172,050円
	作務衣	27,300円



ワキ                      ワキヅレ



前シテ                  小蝶                      ツレ                      頼光

厚板を着附に着、白大口をはき腰帯をしめる。  
(作物―一畳台、塚)  
(文責―小野木和子)



# 平成二十四年度事業計画

開催日	時間	事業内容	場所
10月21日(日)	10:00	秋季演能会 能「葛城」他	会津能楽堂
10月14日(日)	13:00	(9:00作り物) 申合せ・装束調べ	会津能楽堂
10月8日(祝)	13:00	秋季演能会 申合せ	会津能楽堂
9月23日(祝)	17:30	第26回薪能「半部」他	会津能楽堂
9月16日(日)	13:00	(9:00作り物) 申合せ・装束調べ	会津能楽堂
9月9日(日)	13:00	薪能 申合せ	会津能楽堂
7月8日(日)	9:00	能装束類虫干し	会津能楽堂
5月27日(日)	10:00	能「田村」他	会津能楽堂
5月20日(日)	13:00	申合せ・装束調べ	会津能楽堂
5月13日(日)	13:00	春季演能会 申合せ	会津能楽堂
3月11日(日)	11:00	会津能楽囃子会	萬花楼
2月25日(土)	13:00	第63回会津観世流連合会大会	松枝舞台
2月19日(日)	11:00	会津能楽囃子会申合せ	伊東舞台
2月11日(祝)	15:00	定時総会	中ルネッサンス島
1月11日(水)	16:00	決算役員会	ホニューパレス
	10:00	会計監査会(15:00神明神社)	ホニューパレス



和楽会 4月22日(日) 会津能楽堂

◎演能会演目内容

○春季演能会

- 能 「田村」
- 舞囃子 「高砂」
- 「草紙洗」
- 「天鼓」・他

○秋季演能会

- 能 「葛城」
- 舞囃子 「小袖曾我」
- 「桜川」
- 「猩々」・他

(※今年度は、観世流の舞囃子辞退)

○春季演能会 素謡番組

- 〈グループ〉
- 輝雲会・喜宝会 「演目」
- 能楽会(男性) 「難波」
- 能楽会(女性) 「兼平」
- みやび会 「熊野」
- 宝円会・聡雲会 「班女」
- 観世流 「船弁慶」
- 「鶴飼」



### 会津能楽堂案内図



## 編集後記

▼立春と共に明るさを増す「春のひかり」は「よるこびの光」であり「希望のひかり」でもあります。

▼お待ちかねの会報第5号をお届けします。能楽会の会報は隔年発行でスタートしましたが、第4号以来、諸般の事情で、9年ぶりの発行となりました。

▼その一つは、「能楽堂建設運動」にあります。運動が動き出してから9年かかり竣工・完成しました。能楽堂建設協会の役員には山田前会長さんをはじめ多くの能楽会理事が協会理事となり、そのことで会報発行をおさなりにしていた事も否めません。長引けばそれだけ資料や原稿も多くなり、編集作業は大変になりました。

▼その二つは、昨年3月に発生した大震災・原発事故でまたまた発行が遅れてしまいました。

▼能楽堂建設特集号の記事「能楽堂建設の経過」は原稿内容をかなりそぎ落しても、これだけの分量になりました。じっくり読んで頂きたいと思います。協会関係者の苦労には頭が下がりますし、会員の募金活動も組織として機能したことが読み取れます。

▼「演能の記録」にも多くのページを割きましたが、各演目の写真は紙

面の都合上、一葉のみとしました。多くの会員が写真で見られるよう、また同じような場面の写真にならないようにまんべんなく選びました。

▼多年にわたり会津の能楽をご指導下さる先生方には感謝し御礼を申し上げます。会員の皆様には先生方を広く紹介し、先生方にお近づきになる良い契機となるようにと企画致しました。会員の皆様には各先生方に近づけるチャンスが待っております。

▼この会報発行によって会津全域に能楽愛好者が増えていく事に役立てれば編集子としてこの上のない喜びになります。

▼鶴ヶ城の森に「笛の音、太鼓の音、謡の声」が響きわたり、子供達も大人も耳を傾け、「行ってみたいな」と足を運んで欲しいと願っております。

平成二十四年三月

編集委員 玉川おくに

鈴木 圭介  
栗城 幸子

「能楽堂」完成後は会津若松市に寄贈し、管理運営は市教育委員会文化課・事務所は市文化センター内。(利用・申込可能)

☎〇二四二一―二六一六六六一